

DX

ものづくりのDX化やシステム・
インテグレータの事業創出を支援します！

導入支援



TOYAMA
Prefectural
University

セミナー

受講者募集

近年、DXに伴う急速な社会変革が期待され、また実現されつつある状況にあります。一方で、例えば「カーボンプライシング」が近年にわかに話題に上がっていますが、これらに代表される新たな基準や規制に我々はどうに対処すればよいのでしょうか。

DXが扱う領域は、情報通信技術、IoT、データサイエンス、AIをはじめ、さらにはそれらの利活用としての経営科学/工学、人文社会学など多くの分野にまたがるものです。DXの目的は、既存の枠組みにはなかった新たな評価軸や価値を正しく理解、あるいは創出し、問題解決を図るというものです。本セミナーでは、これらの広い領域に対する体系的な学びの場を提供するとともに、ワークショップを通して価値共有のコミュニケーション能力を涵養する機会を提供します。

詳細

期 間：10月13日(水) ～ 調整中 ※全5回

会 場：富山県立大学またはオンライン

募集人数：20名程度 ※原則先着順

受 講 料：10,000円(税込)

※(富山県立大学研究協力会員：5,000円)

対 象：自社のDXに関心のある経営幹部や技術者等

※特定の専門的な知識を前提とはしません。役職に関わらずDXを体系的に学ぶ意欲のある方を歓迎します。

締 切：9月15日(水)

参加方法

ホームページの入力フォームから参加申し込みしてください。申込を受信した旨を折り返し登録メール宛にお送りします。受講者へは、セミナー初日の約1週間前までに受講決定通知及び納入通知書を郵送します。

注意事項

※原則提示したカリキュラムの日程や内容、方法で実施しますが、都合により変更の可能性がございます。その場合は、セミナー開催日の1週間前までにはご連絡いたします(緊急時を除く)。

※オンライン受講においては、インターネットに接続されたPCやスマートフォン等、Webカメラやマイクをご用意下さい。受講環境の不備等により、快適な受講ができなかったもしくは受講自体ができなかった場合の責任を負いかねます。

(主催)富山県立大学 (協力)富山県IoT推進コンソーシアム
※本セミナーは富山県立大学の委託を受けてSYTEが実施しています。

【お問合せ先】

富山県立大学地域連携センター

E-mail: shogaigakushu@pu-toyama.ac.jp



<https://syte.jp>

SYTE
運営 Salon For Youth TOYAMA Engineers

～ セミナースケジュール ～

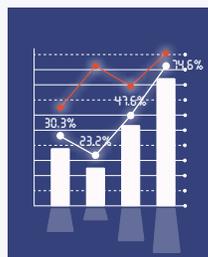
	日程	テーマ	担当講師	場所
1	10月13日(水)18:00～20:00	DX 概論	神戸大学大学院 准教授 藤井 信忠 氏	オンライン
2	10月20日(水)18:00～20:00	データサイエンス概論	富山県立大学 准教授 榊原 一紀 氏	オンライン
3	10月27日(水)18:00～20:00	データ収集	株式会社 山本金属製作所 代表取締役社長 山本 憲吾 氏	オンライン
4	11月10日(水)18:00～20:00	ビジネス価値創造	株式会社 ARISE analytics 佐々木 彰 氏	オンライン
5	調整中(4時間程度を予定)	ワークショップ	一般社団法人とやま情報技術推進協会 SYTE 富山県立大学研究協力会 地域データサイエンス研究会	対面

DX 概論



データサイエンスの考えから、価値創造に至るまでの、「デジタル」「データ」中心の課題解決について概論します。具体的には、産業構造の壁を越えた価値共奏や製造業のサービス化について解説します。最新のDX 研究事例についても紹介します。

データサイエンス概論



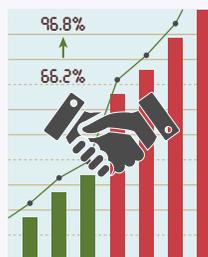
データの扱い方から統計をはじめとする分析技法を紹介します。データから誤った判断をしないための、データの扱い方について解説し、そこから課題解決のための最適化の考えについても学びます。最新のDX 研究事例についても紹介します。

データ収集



ものづくり現場においてIoTを駆使したデータのビジネス活用について解説します。機械加工分野を題材に取り上げた先進的な事例についても紹介します。(詳細は調整中)

ビジネス価値創造



収集されたデータを分析し、ビジネスに活用する方法について、事例ベースに学びます。また、データの分析に留まらず、顧客体験変革を実現するDXの事例についても紹介します。

ワークショップ



県内情報系企業の若手技術者や本学情報系教員や学生とともに課題解決のワークショップを実施します。

キーワード

1	DX, DS, 価値共奏, 製造業サービス化
2	データ, 統計, モデル, 最適化
3	センサ, IoT
4	顧客体験変革, 顧客データ分析